

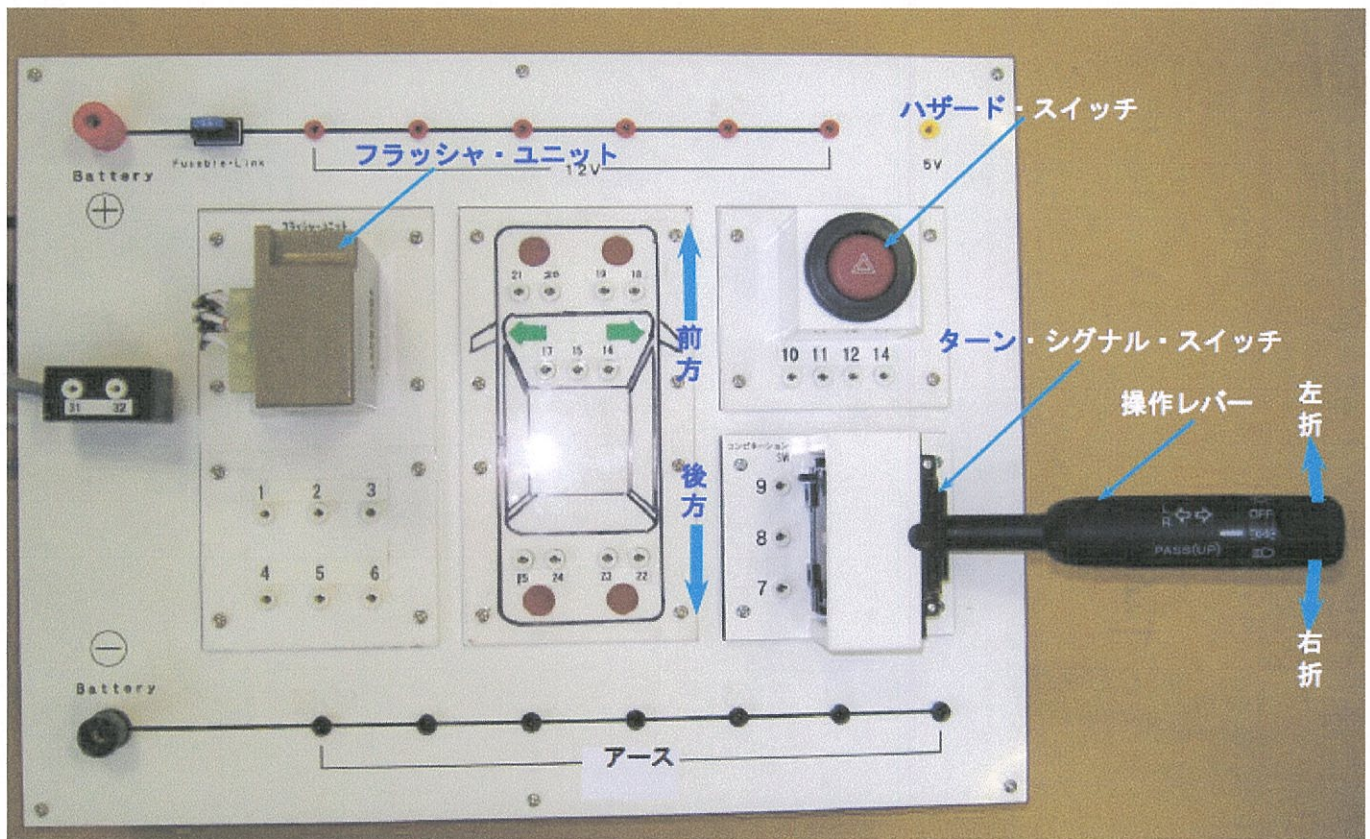
留意事項 (2級ジーゼル)

問題 1

※デジタル・サーキット・テスタのファンクション・スイッチは、電圧(Vポジション)のオート・レンジ(AUTO RANGE)以外では測定しないこと。

問 1・問 2

回路ボード(フラッシュ回路)



問 3

- ① 電圧測定は、回路ボードに設けた測定端子で行うこと。
- ② 回路ボードの番号と、回路図内の番号は、同じです。

留意事項 (2級ジーゼル)

問題 1

問 4

- ① フラッシュャ・ユニットの端子電圧とフラッシュャ・ランプの点滅状態の関係

キー・スイッチ	フラッシュャ・ユニット		フラッシュャ・ランプの状態
	端子番号	端子電圧	
ON	3	0 V	右側点滅
		12V (バッテリー電圧)	右側不灯
	4	0 V	左側点滅
		12V (バッテリー電圧)	左側不灯

※デジタル・テスタの操作上の注意事項



この赤枠内の四つのボタンは、操作しないこと

留意事項 (2級ジーゼル)

問題2

問1

シリンダ・ライナ内径基準値：135.04 ±0.05 mm

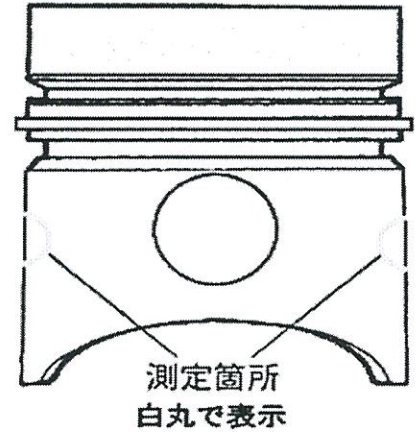
限度：135.25 mm

※シリンダ・ゲージのロッドはセットしてあります。

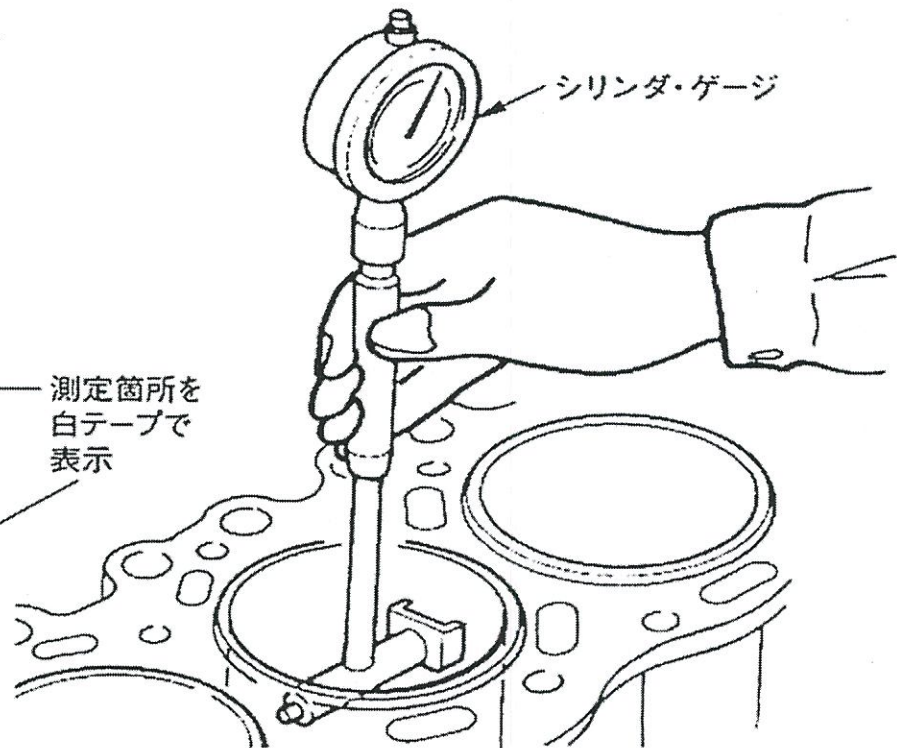
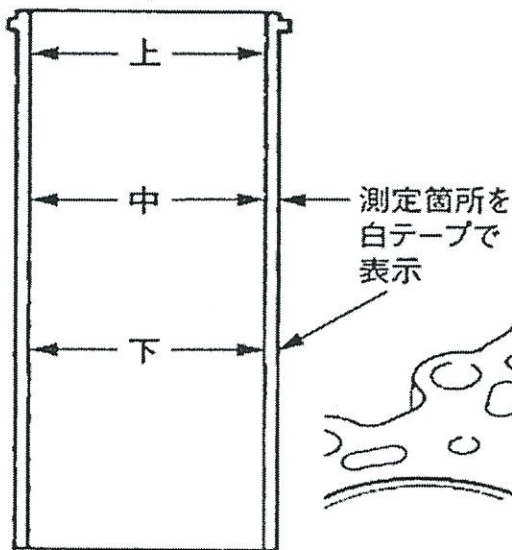
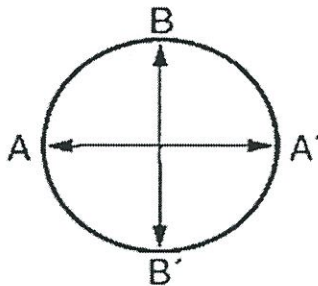
問2

ピストン外径基準値：134.79 ±0.05 mm

限度：134.69 mm



シリンダ・ライナの測定箇所
(中と下で行うこと。)



留意事項 (2級ジーゼル)

問題2

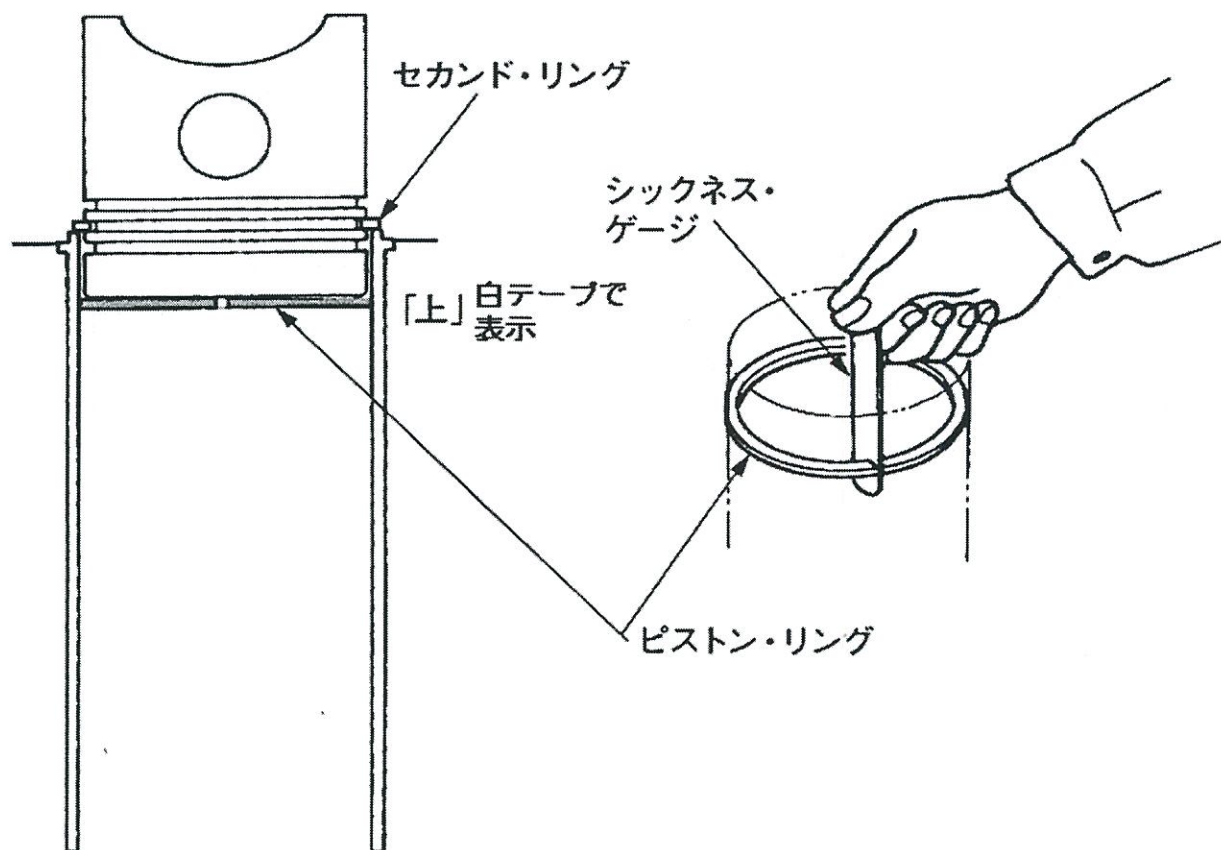
問3

ピストン・クリアランス (ピストンとライナのすき間) :
基準値 : 0.15~0.33 mm

問4

コンプレッション・リングの合口すき間 :
基準値 : 0.40~0.60 mm
限度 : 1.50 mm

※ピストン・リングの合口すき間は、試験の都合上、シリンダ・ライナの「上」の位置で測定すること。図のようにピストンをセカンド・リング位置まで押し入れること。



留意事項 (2級ジーゼル)

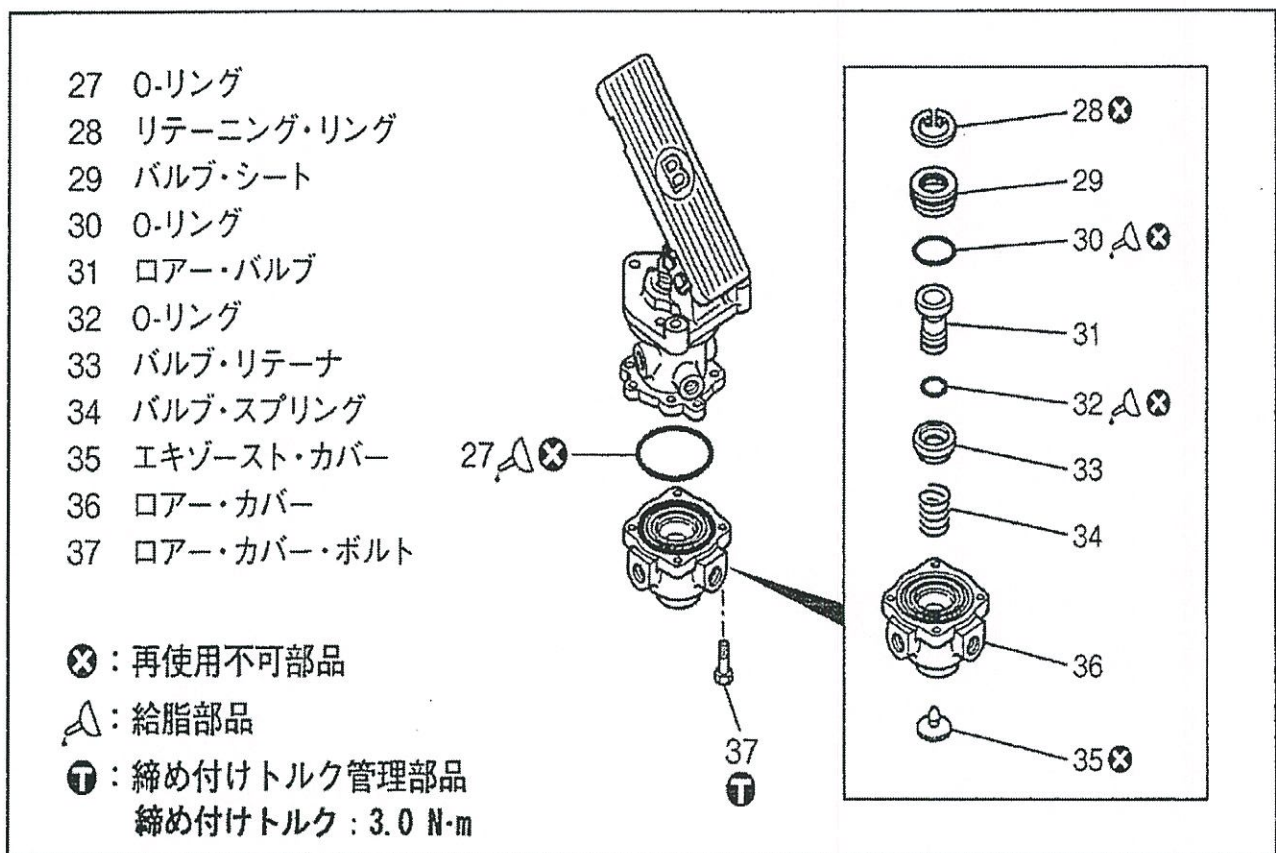
問題3

問1

デュアル・ブレーキ・バルブのロアー・カバー・ボルト

締め付けトルク : 3.0 N・m

デュアル・ブレーキ・バルブ分解図



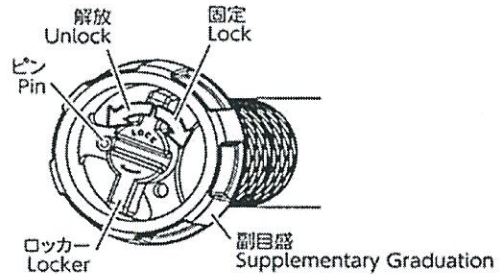
4 使用方法

1 トルク値をセットする。

●QL2N~QL15N-MHの場合
トルク値をセットする。

- ①ロッカーを左に回し緩める。(図5)
- ②副目盛を回してトルク値を合わせる。(主目盛+副目盛)
- ③ロッカーを右に回して副目盛をロックする。(図5)
ロッカーにピンが当たる場合にはピンの位置を変える。

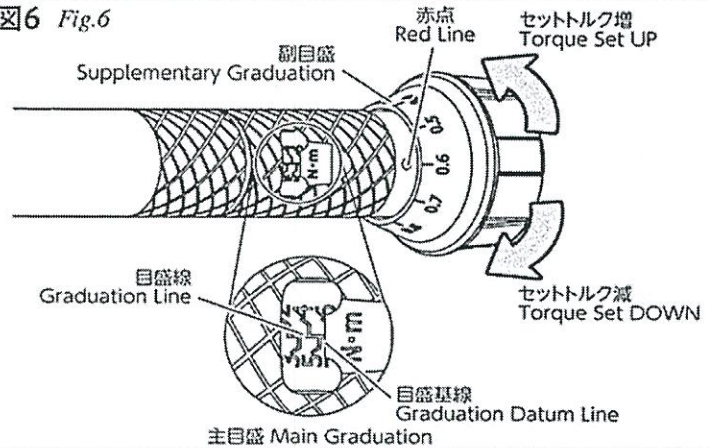
図5 Fig.5



例) セットトルク5.6N・mの合わせ方
(QL10N-MH)

- ①主目盛を見ながら副目盛を回し5N・mの目盛り線が、目盛基線に近づいたら副目盛を確認します。次に副目盛の0を赤い点に合わせます。セットトルク5N・mになります。(図6)
- ②副目盛を見ながら、右方向(プラス方向)に回し、副目盛の0.6を赤い点に合わせます。セットトルク5.6N・mになります。

図6 Fig.6



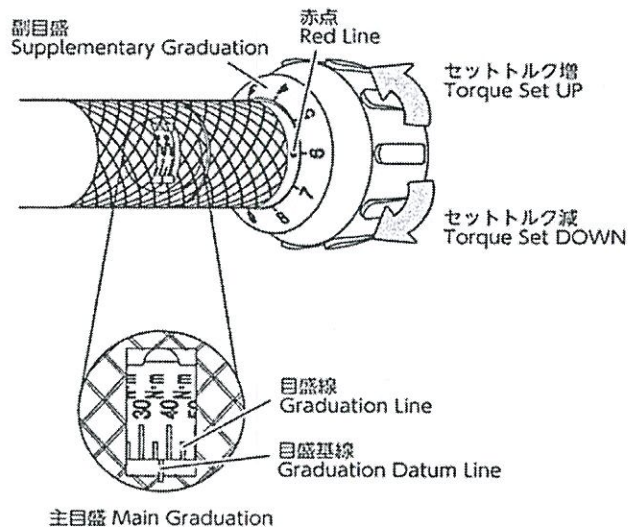
●QL25N~QL280N-MH, QL420Nの場合
トルク値をセットする。

- ①ロッカーを左に回し緩める。(図5)
- ②副目盛を回してトルク値を合わせる。(主目盛+副目盛)
- ③ロッカーを右に回して副目盛をロックする。(図5)
ロッカーにピンが当たる場合にはピンの位置を変える。

例) セットトルク36N・mの合わせ方
(QL50N-MH)

- ①主目盛を見ながら、副目盛を回し30N・mの目盛り線が、目盛基線に近づいたら副目盛を確認します。次に副目盛の0を赤い点に合わせます。セットトルク30N・mになります。(図7)
- ②副目盛を見ながら、右方向(プラス方向)に回し、副目盛の6を赤い点に合わせます。セットトルク36N・mになります。

図7 Fig.7



2 ソケットをボルト又はナットの頭部に合わせます。

4 「カチン」音がしたら締め付け完了。

3 トルクレンチを右に回して締めつける。